

有隣学区

# 防災まちづくり計画

日頃から、町内会の情報や災害時の避難の仕方などを確認し、事前の対策に取り組みましょう。

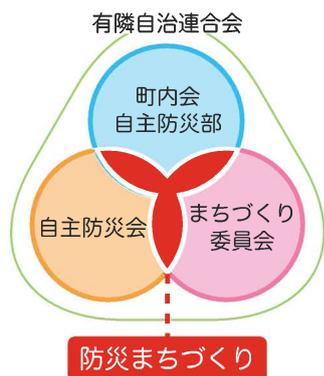
ハンドブック



平成 31 年 3 月  
有隣自治連合会  
有隣自主防災会  
有隣まちづくり委員会

# 目 次

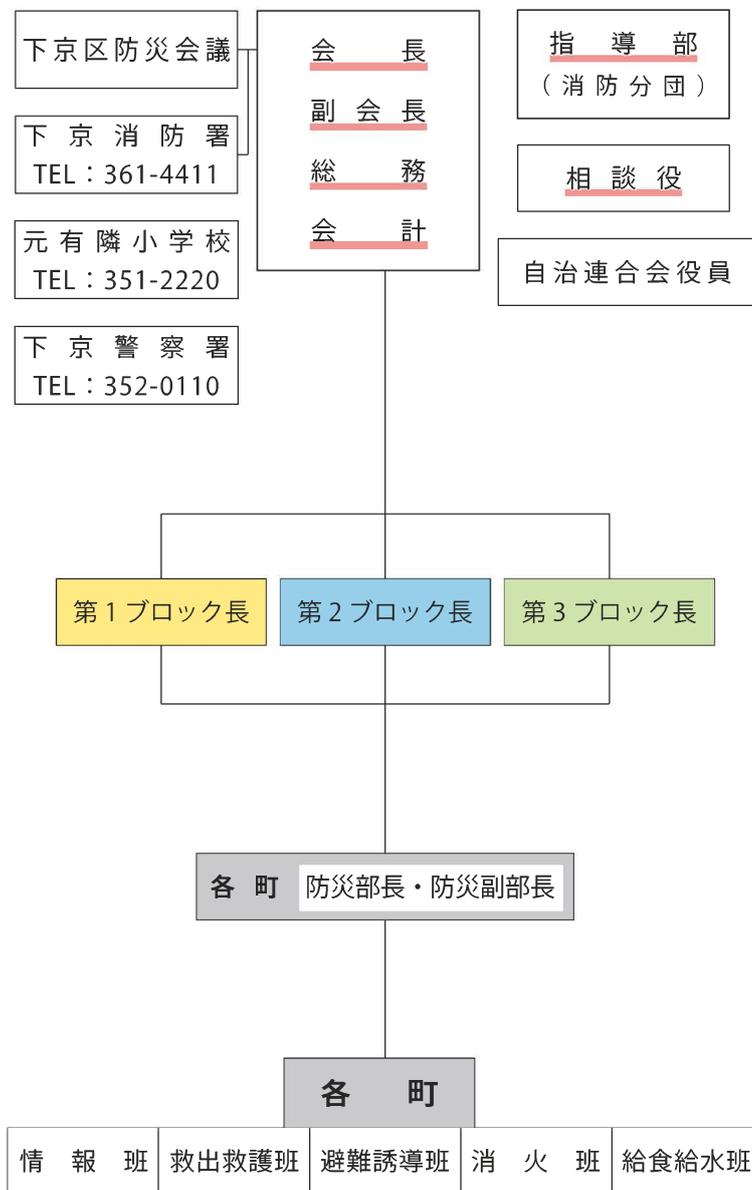
組織表	1
スマートフォン版 防災まちづくりマップの使い方	2
有隣学区の防災上のまちの特性	3
有隣学区の防災まちづくり史	4,5
防災まちづくりの目標と基本方針	6
基本方針1と具体的な取組	7
基本方針2と具体的な取組	8
基本方針3と具体的な取組	9
基本方針4と具体的な取組	10
基本方針5と具体的な取組	11,12
取組体制と年間スケジュール	12
取組チェックリスト	13
学区全体方針図	14,15
第1ブロック	16,17
第2ブロック	18,19
第3ブロック	20,21
具体的取組の候補地 ①	22,23
具体的取組の候補地 ②	24,25



## 有隣学区の防災まちづくりの取り組み体制

○ 「防災まちづくり」は、災害が起こる前に「まち」の防災性を高めるための計画です。そのため有隣学区では、防災の主体となる町内会自主防災部、学区全体の防災を支える自主防災会、まちの現在と将来を検討するまちづくり委員会の、三者が一体となって取り組みます。具体的な取り組み体制を、以下の図に示します。

	町名						
第1ブロック	西橋詰町北部	西橋詰町南部	安植土松町	石不動之町	須浜町		
	上鱗形町	下鱗形町	本覚寺前町	本覚寺前ビレイユ			
	第2ブロック	本上神明町	本本神町	堅神田町	松原中之町	忠庵屋町	
		柏鍛屋町	鍛冶屋町	俵屋町	官社殿町		
		第3ブロック	杉屋町	樋之下町	本灯籠寺町	福田寺町	万寿寺中之町
			朝妻町	亀屋町	塩竈町	塩竈町ルネ河原町	万寿寺町
			万寿寺町2部				



# スマートフォン版 防災まちづくりマップの使い方

まちづくり委員会ではこれまで、有隣学区防災まちづくりマップ（以下、「防災マップ」）の有効活用について話し合ってきました。その中で、**Stroly(ストローリー)**というオンライン地図サービスと連携して、災害発生時の学区の状況をリアルタイムで共有するというアイデアが出されました。災害時にうまく機能するためには、防災マップの認知度アップやスマホに馴染みのない方への配慮、情報収集・発信体制の整備などの課題はあります。しかし、こういった情報共有の方法の可能性と課題について理解を深めるため、まずは実際に利用を体験してみることが重要であると考えています。

そこで、Stroly版の防災マップの使い方をご説明します。以下のような流れで閲覧してみてください。

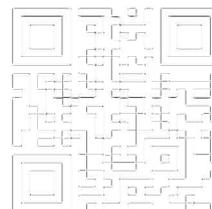


閲覧するには以下の3通りの方法があります。

操作がわからない方はご家族やご近所で詳しい方におたずねください。

## (A) QRコードから読み込む

スマホのカメラアプリを起動し、右に記載のQRコードを読み込んでください。



### 【iOS (iPhone)の方】

標準カメラで読み取り可能です（2017年9月にリリースされたiOS11から、iPhone・iPadの標準カメラにQRコードのスキャン機能が備わりました）。

### 【Androidの方】

PlayストアでQRコード読み込む専用のアプリをインストールしてご使用ください。

### 【LINEをご利用の方】

友だちタブ右上のボタンから「友だち追加」へ行き、「QRコード」選択で起動するQRコードリーダーをご使用ください。

## (B) インターネットブラウザに直接入力

スマホのインターネットブラウザ（ブラウザ, Safari, Google Chrome, Firefoxなど）に防災マップのアドレス (<https://stro.li/a/1526792598>) を入力してください。

## (C) StrolyのHPから検索

① StrolyのHP (<https://stroly.com>) で「Strolyマップを検索する」をクリックし、② 検索窓に「有隣学区」と入力する。③ 「有隣学区防災まちづくりマップ2018」をクリック。

# 有隣学区の防災上のまちの特性

有隣学区は、市内の主要幹線である河原町通、五条通の交差点北西に位置し、東西の通によって、概ね50m×100mの南北縦長の街区が構成されています。街区を区画する道路の幅員は、数mから6m程度の範囲で様々で、いずれも一方通行の一車線が確保できる程度です。特に万寿寺通は、場所によっては2m程度であり、非常に狭くなっています。

街区には、路地、袋路が多く残されており、町家を潜って奥に入るいわゆるトンネル路地もいくつも見られ、災害時の避難に課題があると考えられます。

街区道路に面する建物は、鉄筋コンクリート造など堅牢な建物への建て替えが進んでいますが、一方で京町家も多くあります。特に万寿寺通や福田寺町、西橋詰町界限には、一群としてあり、京都らしい景観がよく伝えられています。また路地・袋路に面する建物にも、伝統的な京町家が多く残されていますが、これら木造建物は、耐震・防火性能において防災上の課題を有しています。

## 有隣防災まちづくりマップ(平成29年度作成)



## 上鱗形町が平安末期の大火「太郎焼亡」の火元であった!?

防災まちづくりを始めるにあたって、有隣学区の防災にまつわる歴史を見てみましょう。

### 【大火の歴史①】 太郎焼亡

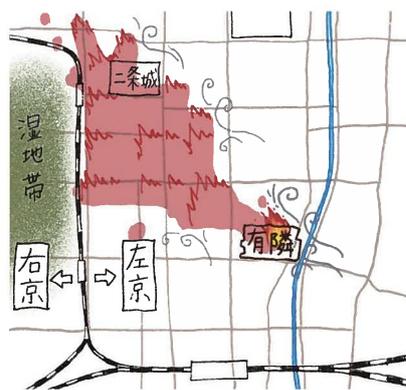
～上△形町から出火、平安京が壊滅的に～

有隣学区の災害の歴史で最も古い記録は、平安末期に発生した大火「太郎焼亡」。その火元が樋口富小路（現在の万寿寺麩屋町上ル）、有隣学区の上△形町あたりでした。

出火後、風により北西へと火が広がり、大極殿（現在の千本丸太町）辺りまで一体が焼けてしまいました。

当時の平安京の様子を紐解くと、右京は湿地帯であり、あまり人が住まず、左京の北や南の端も人家が少なかったといわれています。人が多く住んでいたのは左京の中心部周辺で、太郎焼亡の被害範囲と重なります。このことから、平安京に与えた被害の大きさがうかがえます。

（有隣学区では、“隣”の字を省略し、“△”と書く習慣があります）



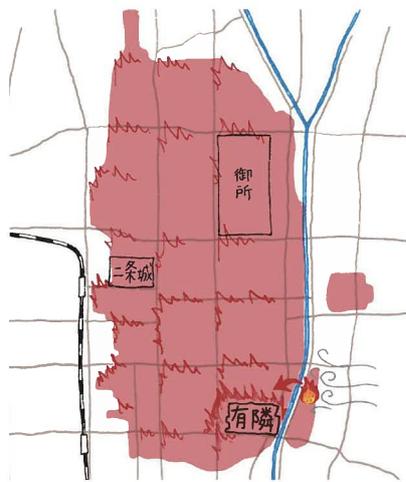
現代の地図上の太郎焼亡範囲

### 【大火の歴史②】 天明の大火

～対岸の火事、では済まなかった～

もう一つ、有隣学区で歴史を揺るがした大火は、江戸時代に起きた「天明の大火」。

この火元は団栗橋の東側。有隣学区から見ると鴨川の向こう側、まさに「対岸の火事」でした。しかし、東からの風が強かったことが災いし、なんと火の粉が鴨川を越えてきたのです！最終的に有隣学区どころか京都市街地のほぼ全域が焼ける歴史的な大火に。江戸時代で一番大変な大火でした。他にも幕末には、蛤御門の変でも有隣学区が焼け野原となっています。



現代の地図上の天明の大火範囲

### 【大火への対策】

まちを滅ぼしかねない大火への対策も人々は重ねてきました。たとえば、江戸時代に幕府は次のようなことを指導していました。

- ・屋根材を板から瓦に変える（＝燃えにくい家にする）
- ・隣同士の蔵を連続するように建てて防火帯を形成する（＝燃えにくいまちをつくる）

また、昔の火消しは、水をかけるのではなく、周辺の建物を壊すことで燃え広がりを防いでいたため、復興がしやすいように、規格材を用いて家を建てていました。



大火への対策のイメージ

## 【地震の歴史】江戸時代の地震と断層

### ～伏見城倒壊、南海トラフ、有隣学区は？～

江戸時代、有馬高槻断層系による慶長伏見地震や、南海トラフの宝永地震など大きな地震が多く起こりましたが、有隣学区辺りでは、被害は比較的少なかったようです。

有隣学区に影響しそうな断層は花折断層です。しかし、花折断層が前に動いたのは何十万年も前のこと。参考にできる史実もなければ、次に動くのが明日なのか、十万年後なのか、誰にもわかりません。油断は禁物です。



周辺の主な断層の位置

## 【水害の歴史】鴨川の氾濫～五条大橋も流された暴れ川～

現在は穏やかな鴨川ですが、昔から氾濫が多い川でした。

特に昭和10年の大雨では、三条大橋と五条大橋が流されるほどの被害でした。

これを機に改修が行われ、現在の河川敷のある鴨川の姿に。その後は氾濫しなくなりましたが、それは改修のおかげでもあり、本来は暴れ川であることも覚えていてください。

## 【道路の歴史】河原町通と五条通の拡幅～多くの住まいの犠牲の上に～

河原町通は、昭和初年に市電を通すために拡幅・延長されました。その際、松原通以南（西橋詰町・植松町・御影堂前町）の多くの家々が取り壊されたり削られたりしました。

五条通では、第二次世界大戦中、空襲による火災を食い止める防火帯を設けるため、建物強制疎開が行われました。五条通沿い（御影堂前町・本覚寺前町・塩竈町・万寿寺町）の南側の家々を、3日間で撤去するよう命令され、地域の人々が作業にあたったといえます。

これらの拡幅により学区の世帯は減り、大きな変化となりました。現在は有隣学区の中で重要な道路ですが、その背景には、建物取り壊しの犠牲になった方々がいることを、どうか忘れずにいてください。



昔の町割りと道路の拡幅位置

## 歴史からみる有隣学区

下京区は昔から祇園祭や商売などで人が集まりやすく、町衆の文化が育まれた地域です。人が多く住めば火災は起こりやすく、その対策にも試行錯誤を重ねてきた歴史があります。

現在も木造の建物や路地が多く、防災上は厳しい面もある一方で、今年度は万寿寺通が京町家指定を受けるなど、残していきたい良い面も多くあります。先人たちが工夫を重ねてきたように、私たちも災害に負けない有隣学区をつくっていきましょう。